

日本の美しい情景を詠んだ
短歌を彫金で表現した
限定モデル



クレドールのアートピースコレクションより、短歌の世界観を彫金で表現した2種類の数量限定モデルが、10月20日より発売される。価格は4,840,000円と4,950,000円。

クレドール

同作は、31文字で綴る日本独自の文化である短歌からインスピレーションを得て誕生した腕時計。美しい情景や作者の心の動きを、短い言葉で詠う「短歌」と、小さなダイヤルで表現する「腕時計」は、どちらも限られた中で美しい世界観を表現することができるという共通点がある。この2つが響きあう「アートピースコレクション」の新作が今秋登場する。

2002年に卓越した技能者(現代の名工)を、2007年に黄綬褒章を受章し

た彫金師・照井清(てるいきよし)氏から技を受け継いだ彫金師・長尾佳奈(ながおかな)氏が、繊細で美しい短歌の世界を、ダイヤルに彫金で表現した。手作業で非常に細かい線をつけていくことで生まれる「絹目仕上げ」や、連続した細かな円を

刻む「魚々子(ななこ)」という緻密な技法を用いている。

晩秋の黄昏時に、銀杏の葉が金色の小鳥のように空を舞う様子に感銘を受けて詠んだとされる歌をモチーフにしたモデル。



「金色(こんじき)のちみさき鳥のかたちして 銀杏(いってふ)ちるなり 夕日

の岡に」 与謝野晶子【恋衣】

ダイヤルのベースにはブランド初となる赤めのうを用いて、茜色に染まる空を表現。その上に銀杏の葉をシルエットで型抜きしたプレートと、小鳥・銀杏の葉を彫金したプレートを重ねることで、奥行きのある立体的な造形に仕上げている。

病床から窓越しに見た、自らに向かってひときわ輝く星から、生きることへの希望や喜びを感じて詠んだとされる歌をモチーフにしたモデル。



「真砂(まさご)なす 数なき星の 其中(そのなか)に 吾に向ひて 光る星あり」 正岡子規【竹乃里歌】

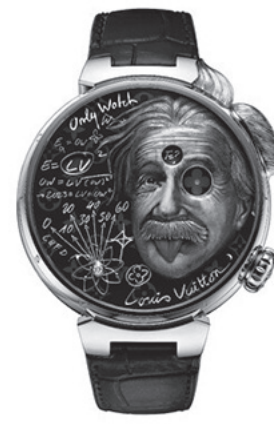
ダイヤルのベースにはラピスラズリを用いて、無数の星が輝く夜空を表現。その上には、はらはらと降る雪を表現した雪華・雪輪模様をシルエットで型抜きしたプレートと、雪華・雪輪模様の彫金を施したプレートを重ねている。また、ひときわ輝く星は11時位置の繊細な彫刻を施した白蝶貝で表現している。

ムーブメントは、厚さわずか1.98mmの極薄メカニカルムーブメント「キャリバー6890」を搭載。68系ムーブメントは国産最高級ドレスウォッチのために、時計としての性能のみならず工芸的な価値や美しさを追求して開発された。零石高級時計工房において、高度な技術を有する時計師が一貫して組立・調整からケーシングまで手掛けている。一つひとつの部品の形状補正やあがき(部品と部品の間に必要な隙間)の調整に100分の1mm単位の精度が求められるため、時計師の手先の感覚のみで最終的な仕上げを行う。熟練時計師でも一日にわずか1個から2個しか組み立てられないムーブメントだ。

シースルーバック仕様の裏ぶたからは、深く鮮やかなブルーが印象的なテンパー仕上げのねじを採用した、その美しいムーブメントを楽しむことができる。

ルイ・ヴィトンは、「オンリーウォッチ 2023」のチャリティイベントに出品する新作ウォッチ「タンブール アインシュタイン オートマタ オンリーウォッチ 2023」を発表した。

「オンリーウォッチ」は、デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する認識を高め、小児、主に男児がかかる死にいたる衰弱性疾患の臨床研究の資金を募るために2005年に創設され。隔年で開催される。メゾンは今年で10年連続の参加。今回、ルイ・ヴィトンは、新作の出品を通じて、より良い未来を目指すこの活動に敬意を表す。



チャリティイベントに出品する
アインシュタインの新作

このウォッチは、メゾンの革新的な自社製オートマタウォッチの継続的な進化を示すと共に、創設以来支援し、メゾンとの緊密な繋がりを象徴するものとなっている。

「タンブール アインシュタイン オートマタ」の誕生の地はアインシュタインが研究を行っていた場所、チューリッヒから数百キロメートルの距離に佇む「ラ・ファブリク・デュ・タンルイ・ヴィトン」。ルイ・ヴィトンのウォッチメイキング専門技術の発展は、このユニークなタイムピースに明確に示され、時計師と職人の才能を証明する。

この唯一無二のウォッチの特徴は、微細彫刻とグライズエナメル技法を採り入れた、卓越した職人技のダイヤル。これら2つの歴史ある職人技が、アルベルト・アインシュタインの肖像を描くために用いられている。この肖像は、思いがけない瞬間に茶目気たっぷりに舌を出し、それは、かの有名ないたずらっぽいポートレート写真を基に解釈されたものだ。

アインシュタインの顔の左側には、彼の画期的な学術研究を想起させるチョークで記したような走り書きがあるがそのうちの1つは「E = LV²」となっている。これはアインシュタインの質量とエネルギーの等価性の公式「E = MC²」の遊び心溢れる隠喩だ。ダイヤルの最下部近くにある、4つの原子価軌道を伴った原子模型は、量子力学へのアインシュタインの非常に優れた貢献を讃えるものだが、よく見ると、原子模型には先の尖ったモノグラム・フラーワの形が組み込まれていることも分かる。

アインシュタインの額の真ん中に開いている穴が表示する未解決の等式「T = ?」——このウォッチを見て、一体何時だろうと疑問に感じる他者の考えを反映している。アインシュタインの左目は、ブルーラッカーのモノグラ

ム・フラーワに置き換えられ、ダイヤル上で唯一着色された2つの要素のうち1つになっている。2つ目の色のついた要素は、もちろんアインシュタインのピンクの舌。彼がこれから明かそうとしていることへの私たちの反応が想像できないかのように、舌を半分出している。

アインシュタインの代名詞とも言える無造作な髪は、複雑で綿密な彫刻作業を要するスチール製。独創的かつ革命的な彼の研究を反映して、46.8mmのケースからはみ出し、片方の幅広い髪の毛が、遊び心溢れる髪を

装ったオートマタのブッシュボタンに。このブッシュボタンを押すと、ダイヤル上で4つのアニメーションが動き出し、すべての疑問に答えが与えられる。新作は、技術的に複雑なムーブメントのおかげで、オンデマンドで時刻を知らせるウォッチとなっている。

「ラ・ファブリク・デュ・タンルイ・ヴィトン」によって製造されたキャリバー525は、このアイコン的な「タンブール」のケース内で時を刻むと共に、ダイヤルに命を吹き込む。「タンブール アインシュタイン オートマタ」は、「タンブール カルペ・ディエム」を2021年度ジュネーブ時計グランプリ(GPHG)でオーダシティ賞受賞へと導いたのと同じムーブメントを搭載している。

また、髪の毛を押すと額の穴の表示が変化し、1から12までの数字を表示してアワーを教える。原子模型が回転し、原子価軌道の1つ(ラッカー塗装が施された先端で区別)が0から60までの目盛りの位置へと移動して、ミニッツを示す。アインシュタインの目にあるモノグラム・フラーワは花びらをすばめる。これは、ダイヤルの下にあるカミソリのように鋭い頭脳を持った精密機構の存在を暗示するもの。そして最後に、正解を出したという歓喜の確信に満ちて、彼の舌をすべて出す。アルベルト・アインシュタイン本人が時刻を教えてくれるので、他の場所に行つて時刻を知る理由はない。

やがて明らかになる最後の1つの秘密がまだ隠されている。有益かつ心躍る情報だ。100時間のパワーリザーブが残り少なくなると、インジケーターがLVからOWに変わり、もはや「E = LV²」ではなく、「オンリーウォッチ チャリティ オークション」のイニシャルへと文字が変わるのだ。これは、ウォッチに機械的エネルギーを補充するよう着用者に促す視覚的な合図。

窪みを持つ『オリエントマコ』独特のベゼルは、三角マーカと目盛りの15分を境にアルミプレートがライトグレーとチャコールグレーに色分けされている。20気圧防水のケースに搭載されたムーブメントは、自動巻き(手巻き付)の自社製キャリバーF6922。日差+25

秒~15秒、駆動時間40時間以上で、安定した高精度を実現する。国内200本限定のこの特別なモデルは、ケースバックに限定シリアルナンバーが刻まれ、『オリエントマコ』の愛好家やコレクターにとっては見逃せない希少品となる。

ダイヤルに伝統模様
「菊つなぎ紋」の
限定モデルと新作3種

キングセイコー

キングセイコーより、1965年に誕生した2代目キングセイコー“KSK”の洗練されたデザインを受け継ぎ、薄型自動巻ムーブメントの「キャリバー6L35」を搭載した限定モデルが発売される。また、キングセイコーが国産機械式腕時計の進化を牽引した1960~70年代のファッションに着着想を得た、アースカラーのダイヤルが特徴の新作3種も発売される。



限定モデルの発売は10月7日で、世界限定600本、価格は440,000円。レ

ギュラー3種の発売は9月8日で、価格は253,000円。

今回の数量限定モデルは、東京・亀戸で誕生したキングセイコーのものづくりに通じる江戸の園芸文化に着着想を得ており、東京で江戸時代から愛され、日本を代表する花である菊をダイヤルデザインのモチーフにしている。カッティングラインが細かく交差する紋様は「菊つなぎ紋」と呼ばれ、江戸切子の中でも最も高度な技法が要求される伝統紋様だ。この紋様をもとにホワイトの型打ちダイヤルによって美しい白菊を表現した。

ムーブメントには、セイコーの現行機種において最も薄型自動巻ムーブメント「キャリバー6L35」を搭載し、ケース構造と風防を改良することによって、2代目キングセイコー“KSK”のオリジナルモデルよりもさらに0.2mmの薄型化を実現した。

ガラスやケースの稜線を丹念に仕上げた際立させることで、KSKの特徴である直線的でエッジの際立つケースデザインをさらに引き立てている。ダイヤルには堂々とした太く長い三面カットの時分針を採用し、立体的なインデック

スに呼応して輝きを放つ。また、ダイヤルと調和するライトグレーのレザーストラップが付属する。

メタルブレスを簡単装着できる新作



豊富に専用レザーストラップをラインアップしているキングセイコーに、メタルブレスレットを簡単に付け外しできる3モデルが加わる。エンドピースの過度な回転を防止するダブルレバー式の簡易着脱レバーを採用した。高級感、着脱のしやすさ、腕へのフィット感を合わせ持ったブレスレットだ。

別売りの10種類のレザーストラップと組み合わせることで、多様なシーンで着用することができる。また、コの字の形状の嵌合部は、ダイナミックな印象を

生み出すとともに、ケースとブレスレットとの隙間を少なく滑らかにつなぐ。

ダイヤルカラーは、チャコールブラック、インディゴブルー、そして新色のオリブグリーンの3種類。キングセイコーが国産機械式腕時計の進化を牽引し

た1960~70年代のファッションから着想を得て、アースカラーを採用している。ダイヤル表面には縦方向のヘアライン仕上げを施し、アースカラーと組み合わせることで、経年変化したような味わいを表現。また、ダイヤルデザインに合わせて、時分針とインデックスにもエイジングカラーのルミブライトを採用しているため、ルミブライトがダイヤルと調和しているうえに、昼夜を問わず視認性を保つことができる。

本作3種に搭載するメカニカルムーブメント「キャリバー6R55」は、コンパクトな自動巻機構を持ちながらも、3日間(約72時間)のロングパワーリザーブ性能を実現している。さらに、デイト表示を備え、様々なライフスタイルに対応する。

エプソンは、「Orient」を代表するダイバーデザインシリーズの『Orient Mako』の最新作を9月7日より発売する。*ISO規格に準拠したダイバーズウォッチではない。

新作は、夕方のビーチサイドの情景をイメージした、落ち着いたグレイを基調とするシックな配色が魅力。文字板にはアラビア数字を配し、サファイアクリスタル風防仕様で国内200本の限定。スポーツやアウトドアのみならずタウンユースにもマッチし利便性の高いモデルだ。

ダイバーズウォッチの意匠を持つこのモデルは、70年を超えるオリエン

ダイバーデザインシリーズ
落ち着いたグレイの新作
Orient Mako



トの歴史において、1960年代以来50年以上に渡る系譜を築いてきた代表作。ケース

バックにドルフィンアイコンをあしらった同シリーズは、2004年の登場以来「オリエントマコ」の愛称で親しまれてきた。20気圧の日常生活強化防水、安定した高精度と信頼性を実現する自社製の自動巻きムーブメントといった基本性能はそのままだ、ヴィンテージテイストを楽しめるカジュアルでファッションなデザインが人気を博してきた。

新作の特長は、アラビア数字を配した文字板とサファイアクリスタル風防。サファイアクリスタル風防を採用する『オリエントマコ』シリーズの文字板には、パーインデックスまたはドットインデックスを配した2種類があるが、今回

は12時、6時、9時にアラビア数字を配した文字板だ。アラビア数字は、オーソドックスな本格ダイバーズウォッチを思わせるパーやドットよりもカジュアル感が強く、ファッションやライフスタイルに合わせて普段使いする現在の主流の使い方にも最適となる。

曜日と日付が並ぶデイ・デイト表示や、暗がりでも時刻が判読できるルミナスライトを施した針とインデックスを配した同作は、ビーチサイドの夕方の情景をイメージ。グレーの文字板と、秒針の先端に添えたオレンジのアクセントは、夜を迎える静かな浜辺と、わずかに残る日の光を思わせる。また、6カ所の

至福の着け心地は、
大人たちの時間のために

じっくりとただ静かに、自分だけの時間を愉しむ大人たちへ。わずか1.00mmのムーブメントがもたらす何物にも代えがたい心地よさをその腕に。

Eco-Drive One

CITIZEN
BETTER STARTS NOW

AR5054-51E 473,000円 (税抜価格 430,000円)
シチズン時計株式会社 <https://citizen.jp>